

編 修 趣 意 書

(教育基本法との対照表)

※受理番号	学校	教科	種目	学年
103-197	高等学校	芸術	工芸Ⅱ	
※発行者の番号・略称	※教科書の記号・番号	※教科書名		
116 日文	工Ⅱ701	工芸Ⅱ		

I. 編修の趣旨及び留意点

- 本教科書は教育基本法第一条に示す教育の目的及び第二条に示す教育の目標に則り、「高等学校学習指導要領第1章 総則」、及び「第2章 第7節 芸術」、「第2款 第8 工芸Ⅱ」に示された趣旨並びに目標や内容を基にして編修に努めた。
- 本教科書の編修に当たっては、特に「高等学校としての芸術科工芸の学びを実感し、工芸を通して生活や社会の中の工芸や工芸の伝統と文化と深く関わる力を養うことができる教科書」を目指し、以下の3事項を重視して新しい教科書を編修することを趣旨とした。

(1) 工芸Ⅰとの学びの連続性がある教科書

- ・工芸Ⅰの学習を踏まえ、学びを「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の三つの柱で整理し明確にした上で、表現と鑑賞を相互に関連させた演習の各題材、及び鑑賞の各題材ページを作成した。加えて、中学校からの美術の基盤である形や色彩、イメージなどの〔共通事項〕に配慮して感じ取る視点や考える視点などを盛り込んだ。

(2) 高等学校工芸Ⅱとしての学びが実感できる教科書

- ・高等学校工芸Ⅱとしての学びが実感できるように次のような工夫をした。
 - ①巻頭及び巻末のオリエンテーションの役割を明確にし、工芸と心豊かな生活との関わりを考えたり、持続可能な社会の視点でものを見たりするなど、課題をもちながら教科書の各題材を学んでいけるようにした。
 - ②「衣」「食」「住」をキーワードに毎日の生活を見直し、生活と工芸の関わりや工芸の働きについて考えさせる題材や、椅子の変遷をとおして社会の変化とものづくりの関係を示したものづくり史の資料などを設定し、工芸に対する見方や考え方が深まるようにした。
 - ③各題材に、学習のねらいを短い言葉で分かりやすく記載するとともに、各ページの下に「検索ワード」及び「調べてみよう」「考えてみよう」などを設け、教科書の内容と関連する事項や興味・関心のある事柄を主体的に学習できるようにした。
 - ④工芸に関わる人を通して工芸に携わる姿勢や生き方を考える、日本及びアジアの工芸作品や伝統と文化を理解するなど、高校生の発達にあった深みのある題材を配列した。

(3) 生活や社会と豊かに関わる力を育む教科書

- ・身近な生活の中にあるものなどの機能や用途を見つめ直したり、考えたりできるように、題材の設定や図版の選定に配慮した。

- ・ 工芸に関わる人のインタビューを掲載したり、自分自身の生活と工芸との関わりを意識させたりするページなど、生活や社会と工芸との関わりが意識できるように工夫した。

II. 編修の基本方針

○本教科書においては、教育基本法第二条に示される教育の目的を達成するために、七つの具体的な基本方針を定め、編修に努めた。

- ・ 二条第一号は①と②に、第二号は③に、第三号は④に、第四号は⑤に、第五号は⑥と⑦に対応している。

第二条 教育は、その目的を実現するため、学問の自由を尊重しつつ、次に掲げる目標を達成するよう行われるものとする。

- 一 幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養い、豊かな情操と道徳心を培うとともに、健やかな身体を養うこと。
- 二 個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養うとともに、職業及び生活との関連を重視し、勤労を重んずる態度を養うこと。
- 三 正義と責任、男女の平等、自他の敬愛と協力を重んずるとともに、公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うこと。
- 四 生命を尊び、自然を大切にし、環境の保全に寄与する態度を養うこと。
- 五 伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うこと。

○教科書編修に関する具体的な基本方針

①幅広い知識と教養を身に付ける

生徒の主体性や個性を尊重し、自己の判断や思いを生かした学習活動になるよう配慮して作品等を選択し、身近な生活と工芸、社会と工芸、鑑賞について幅広く学べるように内容やバランスを考慮するとともに、工芸の歴史や資料等のページも充実を図った。

②豊かな道徳心を培う

芸術としての工芸の学びを重視し、表現することの意義や作者の思いや願いなどを理解できるように題材や記述内容を工夫した。これにより、自己や他者の考えや作品を大切に作る心、よさや美しさを大切な価値とし、それを求めようとする心などが育成されることをねらいとした。

③個人の価値を尊重し、創造性を培い、勤労を重んずる態度を養う

発想・構想や作者の意図と表現の工夫を重視し、生徒が感性や創造性を発揮しながら自己の価値意識をもって表現や鑑賞ができるように題材や記述内容を工夫した。また、時間をかけて集中して制作に取り組む中で、努力することのよさや達成感が味わえるような授業を目指す教科書づくりに配慮した。

④正義と責任、男女の平等、自他の敬愛と協力、社会形成に参画する態度を養う

「調べてみよう」「考えてみよう」などの問いかけを配し、他者との学び合いや話し合いの場を通して、学びの中から正義と責任、男女の平等、自他の敬愛を重んずる心情を培えるようにした。また、社会的な視点で他者が用いる作品を考えることで、主体的に社会の形成に参画する態度を養えるような題材を盛り込んだ。

⑤生命を尊び、自然を大切にし、環境の保全に寄与する

自然の素材のよさや美しさを見つめ直したり、地域の気候や風土と工芸の関係に着目して考えたりする題

材や資料を設定し、持続可能な社会の形成の視点から「心豊かな社会」について考えるなど、自然を大切に環境を保全していく態度の形成に寄与する教科書づくりに配慮した。

⑥ 伝統と文化を尊重し、我が国と郷土を愛する

日本や諸外国の工芸の鑑賞題材の充実を図るとともに、特に磁器の伝播、技の継承と創造、日本伝統工芸、日本の近代工芸史、アジアの伝統的な工芸品マップなどのページを設け、知識等を学びながら我が国及びアジアをはじめとする諸外国の伝統と文化のよさが実感できるように配慮した。

⑦ 国際社会の平和と発展に寄与する態度を養う

自己の表現とともに他者の表現も大切にする心情や、自国の文化とともに他国の文化を尊重する態度などを育成することで、工芸による人間理解や国際理解が深められ、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うことのできる内容にした。

Ⅲ. 対照表

教育基本法第二条	特に意を用いた点や留意点	該当箇所
第一号 幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養い、豊かな情操と道徳心を培うとともに、健やかな身体を養うこと。	① 生徒の健全な心身の発達、豊かな人間性の育成、個性、能力に応じた教育などが習得できるように配慮した。 ② 自己の思いや使う人々の心情、社会や生活環境との調和を考えて制作するなどして生活をより心豊かなものにする事や、自他の存在を認め合って、共に心豊かな人間として社会生活を営むことができるようにその内容を精選、充実させた。	① 全体にわたって ② P. 16, 18~25
第二号 個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養うとともに、職業及び生活との関連を重視し、勤労を重んずる態度を養うこと。	① 生徒一人一人の異なった感じ方や考え方を尊重するとともに、互いの生徒の作品についても、表現の違いや素材の生かし方、作品それぞれのよさなどに気付き、自他の特性や個性について認識し、理解を深めるように配慮した。 ② 環境や福祉の視点から課題を見いだすなど、社会的な視点に立って題材を設定する能力や、工芸が現代の生活の中で果たす役割や必要性などに関心を持ち心豊かな発想ができる力を育てることができるような内容とした。	① 全体にわたって ② P. 4~16, 18~25, 28・29, 34・35, 46・47
第三号 正義と責任、男女の平等、自他の敬愛と協力を重んずるとともに、公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うこと。	① 生徒間で意見を交流するなどして、作品の役割や使う人の気持ちなど、客観的な視点に立って検討し構想できる能力を育てることを重視した。 ② 工芸が社会をより楽しく快適で、心豊かなものにする力を持っていることを示す内容とし、工芸に親しみを持つことによって、生涯にわたって工芸を愛好していく心情や、感性と美意識を高め、工芸の伝統と文化に親しみ、生活や社会を心豊かにするために工夫する態度などの育成につなげることができるように配慮した。	① P. 2~15, 28・29, 32~35, 46・47 ② P. 2~15, 28~31, 34・35, 44~47

<p>第四号</p> <p>生命を尊び、自然を大切にし、環境の保全に寄与する態度を養うこと。</p>	<p>① 実際に自然の素材を見たり触れたりすることでその特性を感じ取る活動を通して、作品づくりのイメージを高めたり、自分を取り巻く生活を見つめ、夢や願いなどから使いたいものやつくりたいものの思いを膨らませるとともに、自然を大切にし、環境を保全していく態度の形成を図る内容を重視した。</p>	<p>①P. 5～25, 34・35, 46・47</p>
<p>第五号</p> <p>伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うこと。</p>	<p>① 工芸の働きや工芸の伝統と文化に関する事項では、生活環境の中に見られる造形的なよさや美しさ、文化遺産などから日本の工芸の特質や美意識を感じ取り、生活や社会を心豊かにする工芸の働きや工芸の伝統と文化などに対する見方や感じ方を深めることを重視した。</p> <p>② 日本の工芸をはじめとして、時代や民族、国などの違いを越えて、長い歴史の中で大切に守られてきた工芸の伝統と文化を尊重し継承、創造していく意義についての考えを深め、我が国の伝統と文化に自信と誇りをもって、国際社会の一員として生きていく豊かな判断力や行動力の育成を重視した。</p>	<p>①P. 4～13, 26, 28～37, 38・43, 46・47</p> <p>②P. 5～13, 30～47</p>

IV. 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色

(1) 学習の課題を設置

- ・表現題材に具体的な表現課題を設置し、それらが使用される人や場などを示し、表現活動における発想や構想のプロセスを参考にできるよう努めた。

(2) 学習内容の関連を重視

- ・教科書を学習資料として一層使用しやすくし、生徒の学習効果が高まることを期待して、題材の内容や掲載している作家、作品などに関連する項目が他のページに掲載されている場合、関連ページを参照できるようにリンクを記載した。

(3) 他教科との関連を重視

- ・国語、日本史や世界史などの教科書に掲載されている人物、作品や事柄など、他教科で取り上げられている内容を研究し、積極的に教科書の紙面に反映させることで、他教科との関連を図り、生徒の学びが一層深まるように配慮した。

(4) 言語能力の育成

- ・鑑賞活動では生徒同士の意見交換が深まるよう、問いかけを掲載し、話し合いを促すような工夫を凝らした。
- ・演習の表現課題では、制作者の思考のプロセスを言語と図で掲載し、自分の考えを言語化し、伝えることの大切さとその技術について学べるよう配慮した。

(5) 社会との連携

- ・地域の伝統的工芸品、身の回りの生活との関連を視野に入れた学習活動を紹介するページを設け、生徒の学習意欲が向上するように工夫した。

編 修 趣 意 書

(学習指導要領との対照表、配当授業時数表)

※受理番号	学校	教科	種目	学年
103-197	高等学校	芸術	工芸Ⅱ	
※発行者の番号・略称	※教科書の記号・番号	※教科書名		

I. 編修上特に意を用いた点や特色

○本教科書は「高等学校学習指導要領 第1章 総則」、及び「第2章 第7節 芸術」、「第2款 第8 工芸Ⅱ」に示された趣旨並びに目標や内容を基にして、造形的な見方・考え方を働かせ、美的体験を深め、生活や社会の中の工芸や工芸の伝統と文化と深く関わる資質・能力を育成することができるよう、以下の各項目において特に意を用いて編修した。

(1) 実態調査を基にした題材設定

・幅広い創造活動を体験し、造形的な見方・考え方を働かせて美的体験が深められるよう、全国で行われている授業の実態を調査し、取り組みやすい題材から応用的な題材まで事例を用意した。

①多くの学校で表現の素材・技法として取り組まれている、木（指物）、金属（蠟付け・鋳金）、土（轆轤づくり）、染織（織り）ガラス（ステンドグラス）は演習として構成し、作品鑑賞と使用する人や場を設定した具体的な表現課題を組み合わせで示し、発想や構想の独自性と表現の工夫などを考えた表現を追求できるように工夫した。

②心豊かな生活と工芸や、生活と工芸、遊びと工芸など、多様な観点からの鑑賞題材を配列し、見方や感じ方、考え方が深まるようにした。

(2) 参考作品を幅広く掲載

・生活や社会の中の工芸や工芸の伝統と文化と深く関わる資質・能力を育てられるよう、身近な内容から普遍的な価値をもつ工芸作品まで幅広く掲載し、多方面から興味をもって学習に取り組めるよう留意した。

①生活と工芸「衣」「食」「住」や、遊びと工芸など、身近な自然や生活の中から題材を設定し、生活や社会の中で工芸を意識できるようにした。

②日本の工芸に加え、諸外国の伝統的な工芸や西洋の工芸作品などについて、複数の図版や解説を加えることにより、興味・関心や理解が深まるようにした。

(3) 明確な学びの視点と学習のねらい

・造形的な見方・考え方を働かせ、「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」が育成できるよう、各題材に学びの視点を明確に示し、生徒が意図をもって学習に取り組めるよう留意した。

①題材の本文等に見方や感じ方、考え方などの学びの視点を盛り込み、見方や感じ方を豊かにしながら、新たなものの捉え方や発想や構想ができるようにした。

②各題材に、分かりやすく短い言葉で学習のねらいを明確に示した。

(4) 歴史的な内容の充実

- ・ 工芸の伝統と文化についての理解を深められるよう、各題材では学習内容の参考となる工芸作品を精選し、掲載した。
 - ① 題材の参考作品を掲載する際に、技法や材料、地域などの違いに配慮して作品を選択した。
 - ② 日本や諸外国の工芸の鑑賞題材の充実を図るとともに、特に正倉院御物に見る工芸、磁器の伝播、技の継承と創造、道具と知恵などの題材ページや、日本の近代工芸史、椅子の変遷に見るものづくり史などの資料について、知識等を学びながら理解が深まるように図版や解説を充実させた。

(5) 学習意欲向上への工夫

- ・ 生徒が高い意欲で学習に取り組めるような工夫を施した。
 - ① 各ページの下に「検索ワード」及び「調べてみよう」「考えてみよう」などを設け、教科書の内容と関連する事項や興味・関心のある事柄を主体的に学習できるようにした。
 - ② 紙面に掲載した二次元コードを通して、題材の制作手順やポイント、動画などを見ることができるようになることで、学習の意欲を高められるようにした。

(6) オリエンテーションの充実

- ・ 巻頭のオリエンテーションでは、「高校生が普段から鞆に入れている」とものと工芸の関係を、巻末では「骨董市に並ぶ」ものからものの価値を考えさせるなど、身近なものを切り口として示し、編集で重視した「学びが実感できる教科書」が感じ取れるように工夫した。
- ・ 巻末の「持続可能な工芸」では、工芸の表現を経験したつくり手として、同時に工芸作品や製品を購入して使用する使い手として、持続可能な社会の形成の視点から「心豊かな社会」の形成についても考えさせることを意図した。

II. 対照表

学習指導要領の内容の構成				
領域	A 表現	項目	事項	
		(1) 身近な生活と工芸	ア 身近な生活の視点に立った発想や構想 イ 発想や構想をしたことを基に、創造的に表す技能	(7) 個性豊かで創造的な発想 (4) 用途と美しさとの調和を考えた制作の構想 (7) 個性豊かで創造的に表す技能
		(2) 社会と工芸	ア 社会的な視点に立った発想や構想 イ 発想や構想をしたことを基に、創造的に表す技能	(7) 個性豊かで創造的な発想 (4) 用途と美しさとの調和を考えた制作の構想 (7) 個性豊かで創造的に表す技能。
		B 鑑賞	(1) 鑑賞	ア 工芸品などの見方や感じ方を深める鑑賞 イ 工芸の働きや工芸の伝統と文化に関する鑑賞
[共通事項]	(1)		ア 造形の要素の働きの理解 イ 全体のイメージや作風、様式などで捉えること	

図書の構成・内容	学習指導要領の内容			内容の取扱い	該当箇所
	内容				
	A 表現	B 鑑賞	[共通事項]		
心豊かな生活と工芸		イ (ア)	ア イ	(3)	p. 2・3
生活と工芸		ア (ア) (イ) イ (ア) (イ)	ア イ	(3)	p. 4
生活と工芸 衣		ア (ア) (イ) イ (ア) (イ)	ア イ	(3)	p. 5~7
生活と工芸 食	(2)イ (ア)	ア (ア) (イ) イ (ア) (イ)	ア イ	(3)	p. 8~10
生活と工芸 住	(1)ア (ア)	ア (ア) (イ) イ (ア) (イ)	ア イ	(3)	p. 11~13
遊びと工芸	(1)ア (ア) (イ)	ア (ア) (イ) イ (ア) (イ)	ア イ	(1) (2) (3)	p. 14・15
木の技法 指物	(2)ア (ア) (イ) イ (ア)	ア (ア) (イ)	ア イ	(1) (2) (3)	p. 16
塗料と塗装	(1)イ (ア) (2)イ (ア)		ア イ	(3)	p. 17
金属の技法 蝋付け・鋳金	(1)ア (ア) (イ) イ (ア) (2)ア (ア) (イ) イ (ア)	ア (ア) (イ)	ア イ	(1) (2) (3)	p. 18・19

土の技法 轆轤づくり	(1)ア (ア) (イ) イ (ア)	ア (ア) (イ)	ア イ	(1) (2) (3)	p. 20
染織の技法 織り	(1)ア (ア) (イ) イ (ア)	ア (ア) (イ)	ア イ	(1) (2) (3)	p. 21
素材と技法 ガラス	(1)ア (ア) (イ) イ (ア)	ア (ア) (イ)	ア イ	(1) (2) (3)	p. 22・23
素材と技法 革	(1)ア (ア) (イ) イ (ア) (2)ア (ア) (イ) イ (ア)	ア (ア) (イ)	ア イ	(1) (2) (3)	p. 24・25
和紙	(1)イ (ア) (2)イ (ア)		ア イ	(3)	p. 26
合成樹脂	(1)イ (ア) (2)イ (ア)		ア イ	(3)	p. 27
工芸と人		ア (ア) (イ) イ (ア) (イ)	ア イ	(3)	p. 28・29
正倉院宝物に見る工芸		イ (イ)	ア イ	(3)	p. 30・31
磁器の伝播		イ (ア) (イ)	ア イ	(3)	p. 32・33
技をつなぐ 継承と創造		イ (ア) (イ)	ア イ	(3)	p. 34
道具の知恵		イ (ア) (イ)	ア イ	(3)	p. 35
日本の伝統的工芸品		ア (ア) (イ) イ (ア) (イ)	ア イ	(3)	p. 36・37
日本の近代工芸史		ア (ア) (イ) イ (ア) (イ)	ア イ	(3)	p. 38・43
椅子の変遷に見る 近代ものづくり史		ア (イ) イ (イ)	ア イ	(3)	p. 39~42
アジアの伝統的な工芸品マップ		イ (ア) (イ)	ア イ	(3)	p. 44・45
持続可能な社会と工芸		イ (ア) (イ)	ア イ	(3)	p. 46・47